



命について考える日

(校長 勝亦 英彦)

6月9日の週は、浜松市中の小中学校で「命」について考える週間です。

飯田小学校では、昨日9日(月)のいなほの集いで、いじめについて話をしました。また、各学級でも、道徳の授業やふりかえりの会の中で、命の大切さについて話をしていきます。御家庭でも、かけがえのない命をもって生まれてきたことに感謝し、自分の命を精一杯生きることの大切さ、すばらしさについて話し合ってみていただけたらと思います。集いの中で話した内容を紹介します。

校長先生が目指す「みんな仲良し飯田ファミリー」は、すべての人が笑顔でなければなりません。「いじめ」はそんな笑顔をなくしてしまいます。そこで、今日は、「いじめの矢と心」という話をします。

いじめの矢にはいろいろな種類があります。たたいたり、蹴ったりする「**暴力の矢**」、～しろとか、よこせとか強制する「**命令の矢**」、死ねとかきもいとか悪口を言う「**言葉の暴力の矢**」、「○○ちゃんとは話すのやめよう」「向こうに逃げよう」とか、一人ぼっちにさせる「**無視や仲間外れの矢**」、人のノートや机に落書きする、物を隠す、こわす「**嫌がらせの矢**」、失敗した人を笑ったり、人と違うことをバカにしたりする「**からかいの矢**」、タブレットやゲーム機で友達の悪口を書いて広げたり、友達になりすまして勝手にうその情報を広げたりする「**ネットを使いたいじめの矢**」などです。

いじめられた人の心には、たくさんの「いじめの矢」が刺さっていきます。とても痛いでしょうね。このままにしておいていいですか？心が壊れてしまう前に、いじめの矢を抜かないといけません。でも、いじめの矢は、いじめられている本人は自分で抜くことは難しいのです。では、どうやったらいじめの矢を抜くことができると思いますか？それは、周りの人の行動です。

「あなたは一人じゃないよ」、「大丈夫だよ、私は味方だよ」、「心配ないからね」と優しく声をかけたり励ましたりする。見ていた周りの人が「やめなよ。それはいじめだよ。だめだよ」と止める。見た人が、先生に「○○さんが困っています。助けてあげたい」と伝え、相談する。または、いじめた人が反省をして、「ごめんね。もうしないよ」と謝る。そうやって、矢は抜けていきます。

でもね、抜けた後でも心には傷が残るのです。その穴はふさがらないかもしれません。大人になっても一生、いじめにあったこの心の傷を忘れることができないかもしれません。だから、いじめは絶対になくさなければいけないのです。

同じことを言ったりやったりしても「いじめの矢」が心に刺さらない人もいるかもしれません。ちょっとしか刺さらない人もいるし、グサツと刺さる人もいます。自分はいじめているつもりでなくても、いじめになってしまうことがあります。だから、相手の気持ちを真剣に考えて行動することが大切なのです。

そもそも、いじめの矢が飛ばないようにすることが大事ですよ。いじめの矢が飛びにくいクラスにはある特徴があります。「人の話を最後まで聴き合える学級」です。なぜだか分かりますか？人のことを大切に思うからこそ聴こうと思うのですよね。聞いてくれるから安心できるのです。そんな温かい学級をみんなで作っていきましょう。

【タブレットの持ち帰り始めます】

教育DXの推進、個別最適な学びを目指し、学年の実態に合わせて、タブレットを持ち帰り、課題に取り組んだり、家庭学習を行ったりしていきたいと思っています。さくら連絡網に添付した「学習者用タブレット型端末活用について」をよく確認し、適切に活用していただくようお願いします。持ち帰る日と持ってくる日は、荷物の軽減を図り、お子さんの負担を少なくします。充電はしないで結構です。御理解・御協力をお願いします。